

教育関係共同利用拠点
知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点
—大学教員のキャリア成長を支える日本版 SoTL の開発
令和 2 年度 事業報告書

Joint Educational Development Center "Excellence in University Learning and Teaching" Project Report 2020

資料編 (WEB 版)

東北大学高度教養教育・学生支援機構
大学教育支援センター
Center for Professional Development (CPD)
Institute for Excellence in Higher Education (IEHE)
Tohoku University

4 資料編





4.1 PD（専門性開発）分野一覧	2
4.2 PD セミナー分野別一覧	3
4.3 PD セミナー参加者アンケート結果	6
4.4 PDPonline（専門性開発プログラム動画配信サイト）一覧	20
4.5 プログラム修了者数（2010～2020 年度）	23


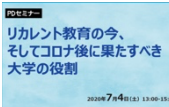


4.1 PD（専門性開発）分野一覧

ゾーン	カテゴリー	エレメント
高等教育のリテラシー 形成関連 コード：L (Literacy)	高等教育論 L-01	高等教育の歴史，大学の理念，大学制度・組織，入試制度，関連法制，管理運営，国内外の動向など広く高等教育に関する知識・教養に関するもの
	大学教員論 L-02	大学教員の役割・責務，倫理，キャリア形成など大学教員に関する知識
	教育内容・カリキュラム論 L-03	教養教育論，カリキュラム論など教授する教育内容の教育論に関するもの
	教授技術論 L-04	授業の設計，シラバスの書き方，学習と教授の心理学，教育測定の原理と方法，プロジェクトベースラーニングの進め方，論文・レポート執筆の指導など教授技術に関するもの
専門教育での 指導力形成関連 (各専門分野) コード：S (Speciality)	学習指導法 S-01	専門分野の学習方法の指導法
	実験指導法 S-02	実験の計画，準備，実施，結果の整理，施設・設備・機器類の使用，危険の防止，倫理的ガイドライン等についての指導法
	研究指導法 S-03	研究テーマの設定方法，関連文献の検索方法，プレゼンテーションの方法，論文のまとめ方，研究費の申請方法等についての指導法
	実務家教員 S-04	産学連携教育，リカレント教育
学生支援力 形成関連 コード：W (Health & Welfare)	学生論 W-01	現代学生論，大学生の発達と学習，学生の生活問題，学生理解とカウンセリングなど学生理解と指導に関するもの
	学生相談 W-02	大学コミュニティへの適応支援の技術，カウンセリングの基礎，コンサルテーションの基礎，グループワークの基礎，人間関係調整法等の指導
	キャリア教育 W-03	進路選択の支援方法，キャリア形成の支援方法，経済的自立の指導
	健康教育 W-04	健康な生活習慣形成の指導法，趣味や余暇活用の指導法
マネジメント力 形成関連 コード：M (Management)	組織運営論 M-01	大学の管理運営，大学のリーダーシップ論，危機管理
	大学人材開発論 M-02	FD/SD 論，教職員開発プログラム作成，キャリア・ステージ論
	教育マネジメント M-03	質保証，入口管理，カリキュラム・マネジメント，出口管理

4.2 PD セミナー分野別一覧

*参加者数：上段合計数，中段（学内者数），下段（学外者数）

No.	セミナー名	参加者数*	備考
高等教育のリテラシー形成関連 コード：L (Literacy)			
1	アカデミックリーダーのためのインストラクショナルデザイン 2020年8月30日(日) 14:00~17:00 講師：鈴木 克明(熊本大学 教授)	157 (18) (139)	
2	世界の高等教育政策 2019年9月19日(土) 14:00~16:00 講師：杉本 和弘(東北大学 教授)	190 (20) (170)	
3	第32回東北大学高等教育フォーラム 大学入試を設計する—「大学入試研究」の必要性とその役割— 2020年9月23日(水) 13:00~17:00 基調講演1：「大学入試学」の淵源と展開 一 個別大学の入試関連組織と入試戦略一 倉元 直樹(くらもと なおき) 東北大学教授 基調講演2：「大学入試学」の実践と成果 一 エビデンスに基づく東北大学の入試改革一 宮本 友弘(みやもと ともひろ) 東北大学教授 現状報告1：入試改革への挑戦 一 お茶大新フンボルト入試の実施状況・課題・展望一 安成 英樹(やすなり ひでき) お茶の水女子大学教授 現状報告2：大学入試を読み解き、解きほぐす 一 高校現場の実践と課題一 笠井 敦司(かさい あつし) 青森県立青森高等学校教諭 現状報告3：「高大接続改革」に対する高校現場の受け止めと今後の期待 杉山 剛士(すぎやま たけし) 武蔵高等学校中学校長	375 (0) (375)	
4	高大接続と大学入試改革 2020年10月10日(土) 14:00~16:00 講師：宮本 友弘(東北大学 教授)	131 (13) (118)	
5	令和2年度 IDE 大学セミナー 大学教育の新常態？ —オンライン授業の経験は、持続的変化をもたらすか— 2020年11月16日(月) 14:00~16:30 基調講演：緊急対応としての遠隔授業から次世代大学の創成へ 鈴木 克明 熊本大学 教授 事例報告：サステイナブルな全授業オンライン化の取り組みとその後 稲垣 忠 東北学院大学 教授 指定討論：コロナ禍から得られたカリキュラムマネジメントへの示唆 杉谷 祐美子 青山学院大学 教授	274 (40) (234)	

No.	セミナー名	参加者数*	備考
専門教育での指導力形成関連 (各専門分野) コード : S (Speciality)			
6	実務家教員の育成にいかに関わらるかー教育・雇用一体改革の視点からー 2020年5月21日(金) 15:00~17:00 講師: 大森 不二雄 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授) 主催: 名古屋大学高等教育研究センター 共催: 高度教養教育・学生支援機構	65 (0) (65)	
7	リカレント教育の今、そしてコロナ後に果たすべき大学の役割 2020年7月4日(水) 13:00~15:00 講師: 乾 喜一郎 (白百合女子大学 非常勤講師)	78 (16) (62)	
マネジメント力形成関連 コード : M (Management)			
8	大学におけるリスクマネジメントと広報活動 2020年7月23日(水) 14:00~16:00 講師: 駒橋 恵子 (東京経済大学 教授)	92 (24) (68)	
9	SDP シリーズ 第1回 (2020年度) 大学と資産運用 2020年12月5日(土) 14:00~15:30 講師: 川崎 成一 (一般社団法人国立大学協会 政策研究所 特別研究員)	72 (10) (62)	
10	SDP シリーズ 第2回 (2020年度) 破壊的イノベーションと大学 2020年12月19日(金) 13:00~15:00 講師: 河南 順一 (同志社大学 大学院ビジネス研究科 教授)	91 (13) (78)	

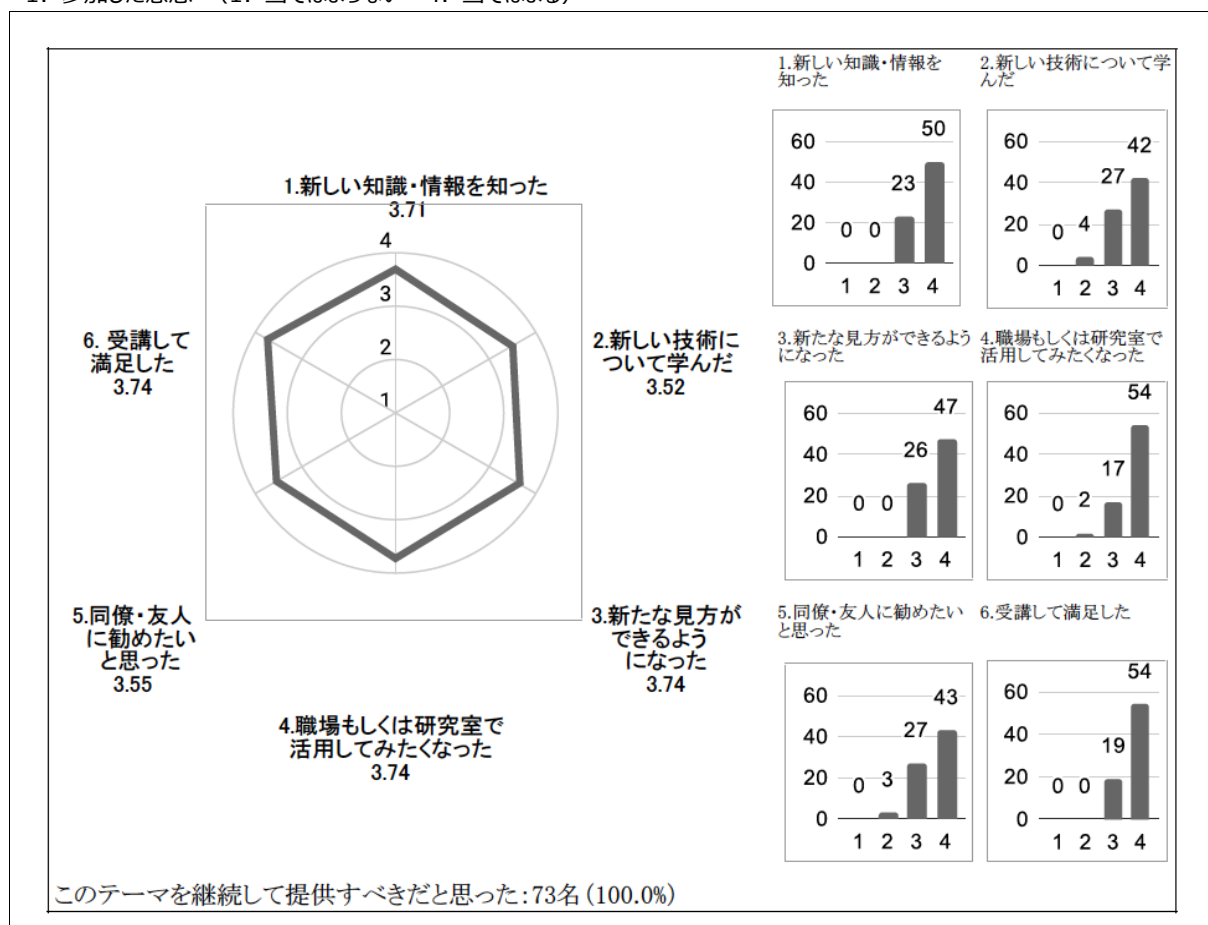
No.	セミナー名	参加者数*	備考
その他			
11	第5回 HEIJ 大学教育イノベーションフォーラム 「FD・SD のイノベーション：コロナ禍における取組と今後の展望」 2020年10月29日（木）13:00～15:30 事例1：「東北大学のFD・SDの取り組みと展望」 大森 不二雄（東北大学 教授） 事例2：「千葉大学のFD・SDの取り組みと展望」 我妻 鉄也（千葉大学 特任助教） 事例3：「芝浦工業大学のFD・SDの取り組みと展望」 榊原 暢久（芝浦工業大学 教授） 事例4：「帝京大学のFDの取り組みと展望」 井上 史子（帝京大学 教授） 事例5：「愛媛大学のFD・SDの取り組みと展望」 竹中 喜一（愛媛大学 講師） 事例6：「熊本大学のFD・SDの取り組み」 鈴木 克明（熊本大学 教授）	212 (8) (204)	
12	大学改革を担う実務家教員フェア 2021（第2回） 2021年3月20日（土） 第1部：日本実務教育学会設立記念シンポジウム 「実務家教員と研究者教員の境界線はどこにあるのか？」 パネリスト：吉武 博通（情報・システム研究機構 監事、東京家政学院理事長） 稲永 由紀（筑波大学 大学研究センター 講師） 佐藤 浩章（大阪大学 全学教育推進機構教育学習支援部 准教授） モデレーター：川山 竜二（社会情報大学院大学 プロポスト） 第2部：「大学教員を目指す社会人のための基礎講座」 講演：『「社会人教授」の大学論』 宮武 久佳（東京理科大学 教授） 話題提供1：『実務家教員の役割と可能性（1）』 森 紀人（株式会社 ANA 総合研究所） 話題提供2：『実務家教員の役割と可能性（2）』 高橋 修一郎（株式会社リバネス代表取締役社長 COO） 話題提供3：『実務家教員の役割と可能性（3）』 宇野 健司（株式会社 大和総研 調査本部副部長）	247 (9) (238)	
13	全学新任教員研修 2020年7月8日（水）～8月21日（金）	242	

2020年度PDプログラム参加者総数 延べ2,226名

4.3 PD セミナー参加者アンケート結果

高等教育のリテラシー形成関連 コード：L (Literacy)	
2020年 8月30日(日) 14:00-17:00	アカデミックリーダーのためのインストラクショナルデザイン
	講師 鈴木 克明 (熊本大学 教授 教授システム学研究センター長)
回収率 = 48.7% (73/150)	
回答者属性(N=73)	
【職階】教授(17)/准教授(13)/講師(8)/助教・助手(4)/管理職教員<学長～学部長>(0)/博士課程(4)/職員<部長・課長以上>(7)/職員<係長・主任・一般職員等>(10)/その他(10)/無回答(0)	
【性別】女性(37)/男性(34)/無回答(2) 【学内外】東北大学(5)/他大学等(68)/無回答(0)	

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・ with コロナの時代における大学教育（授業）の展開方法についてアイデアを頂けた。また参加者の皆様のお考えをチャットで拝見できたことはよかった。
- ・ TOTE モデルのような手順が教育の現場に速やかに普及すると良いと思いました。
- ・ 出口と入り口の設定と、テストの活用
- ・ ID について継続的な学びが必要だとあらためて思いました
- ・ 「魅力」をデザインする方法についてが、一番抜けているなど気づきました。
- ・ ID の考え方を基にしたカリキュラムに沿って、教材作成も進めなければならないと思いました。
- ・ ARCS モデルなどの ID 理論
- ・ ムーアの理論
- ・ 習得主義から入ること。
- ・ 効果・効率・魅力を高める ID モデル（特に、「やる気は、やりがいを感じ、...」「基礎から教えるのではなく、...始める」などの観点を、授業をデザインする際に意識し続けたいと思いました。
- ・ 授業デザインのコツ
- ・ 5つ星インタラクションを意識して後期の授業に取り組みたいです
- ・ 「足場かけ」の考え方
- ・ オンライン授業を実践するうえで参照すべき学術的知見について学ぶことができ、たいへん有意義でした。

- ・「効果・効率・魅力を高めるインタラクティブデザイン」は、ぜひとも役立てたいと思いました。
- ・結局、方法論ではなく、学習者を中心にした授業の大切さを実感しました。
- ・応用を提示してから基礎を教える、という考え方、能力の差を必要学習時間の差として捉え、効率化を目指すという考え方。
- ・職員ですが、このような情報を積極的に共有していこうと思います。
- ・構造化、自律性、リモートと対人のバランスなど、考える視点を得た。
- ・課題内容の進行と step up を、学生とともに意識して継続的に学習の習得を引き出せるようにしたいと思った。
- ・基礎から積み上げず、応用から始めるという視点
- ・全般的にたいへんわかりやすいセミナーでした。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・ディスカッションの時間について、(あえて短くしてあるのでしょうか) やっぱり、短かったです。
- ・同価値・足場掛けの理論、IDに関する用語など初めて接したので少し難しかったです
- ・「パラシュート勉強法」の具体的があると、イメージがしやすかったかもしれません。
- ・たくさん理論などが出てきましたが、この分野に関しては初学者であるため、分からない言葉が多かった…。
- ・遅れて参加したため(自分が悪いのですが)最初はチャットを何に使っているか分からなかった。
- ・図表が複雑で、イメージとロジックの理解が難しいか。
- ・ディスカッション時間が短すぎた
- ・熊本大学の「教育改善スキル習得」の内容をもっと知りたい。参加を検討したい。
- ・語学教育への応用の方法等
- ・ムーアの交流距離理論 学生の自律性学習
- ・良質なテストとは何か、途中で説明があり、テストというより課題だと分かったが、これについて具体的に、詳しく説明して欲しかった。オンライン授業ではテストの仕方と評価が最も難しいと感じているので。
- ・ワークショップが、もう少し実りあるアウトプットがあればよかった

4. セミナーに関する意見・感想

- ・大学のオンライン授業においても、対面授業のように他の受講者の発言を共有できる環境が実現しているのか、現場の実態に興味があります。
- ・鈴木先生の著書を拝見するなかで、理解が進んでいないところ・誤って理解していたところがあったことが、整理できた。非常に有意義な講義だった。
- ・チャットタイムがあって、一方的なウェビナーと違い、双方向感がありました。
- ・無料でこのようなセミナーをありがとうございます
- ・ドキュメントの共有方法を工夫していただければいいと思います。(全員が同じドキュメントに入るのは重くなるので) 鈴木先生、いつもありがとうございます。コメントも全部答えてくださりありがとうございます。
- ・途中でチャット確認、いいですね。参加者にとってもいい小休憩になりますし、私達の理解具合を先生に知っていただく時間になります。自分も授業でやってみたいです。
- ・講演→それを踏まえたワークショップという流れが、とても素晴らしく、自分に引き付けながら多くの気づきを得ることができました。また、グループワークが3回に分かれており、疲れを感じたり飽きたりすることなく、議論に参加することができました。
- ・鈴木先生、運営の方々非常に興味深く、すぐに应用してみたい内容でした。貴重なセミナーありがとうございました。
- ・色々な先生のご意見を聞いて大変勉強になりました。
- ・理論の内容等については、事前に何かの教材を視聴できるとよかったですと思います。
- ・このような企画、そして機会をいただき、本当にありがとうございました。
- ・オンラインでも対話があり、参加者の意識が高い場であったと感じました。コメント欄を有効に活用する間の取り方は、大変勉強になりました。
- ・教育改善は、小中学の方が進んでいるようなので、この方面からの講師によるセミナーなど希望します。
- ・受講の準備が不足していました。できていると理解が進んだと思う。現況の問題点、設計上の悩みなど討議でき、参考になります。
- ・チャットに答えていただき、先生に親近感を持って、また他の参加者の方と一体感を持ってました。
- ・地方在住者にはありがたいので、今後もオンラインでの開催を継続してください。
- ・配付資料の電子データもいただき、インタラクティブなオンライン研修方法の実例としても参考になったので、今回はむしろオンラインで良かったと思います。
- ・本当は後半のワークショップも参加予定にしていたのですが、通信環境の関係でビデオが繋がらなくなり、断念いたしました。次回も同様のセミナーがありましたら参加させていただきたいと思いました。
- ・課題図書があり、勉強になりました。(授業前に) 受講者の知識を揃えておくのは重要だと考えております。
- ・オンラインセミナーはほんとうに参加しやすい。現地に行くとなると、新幹線やら宿泊やらを考慮しなくてはならないので、興味深いセミナーがあっても参加できなかった。オンラインであれば簡単に参加できて、有益な知識を広く普及できると思った。

2020年 9月19日(土) 14:00-16:00	世界の高等教育政策	
	講師	杉本 和弘 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授)

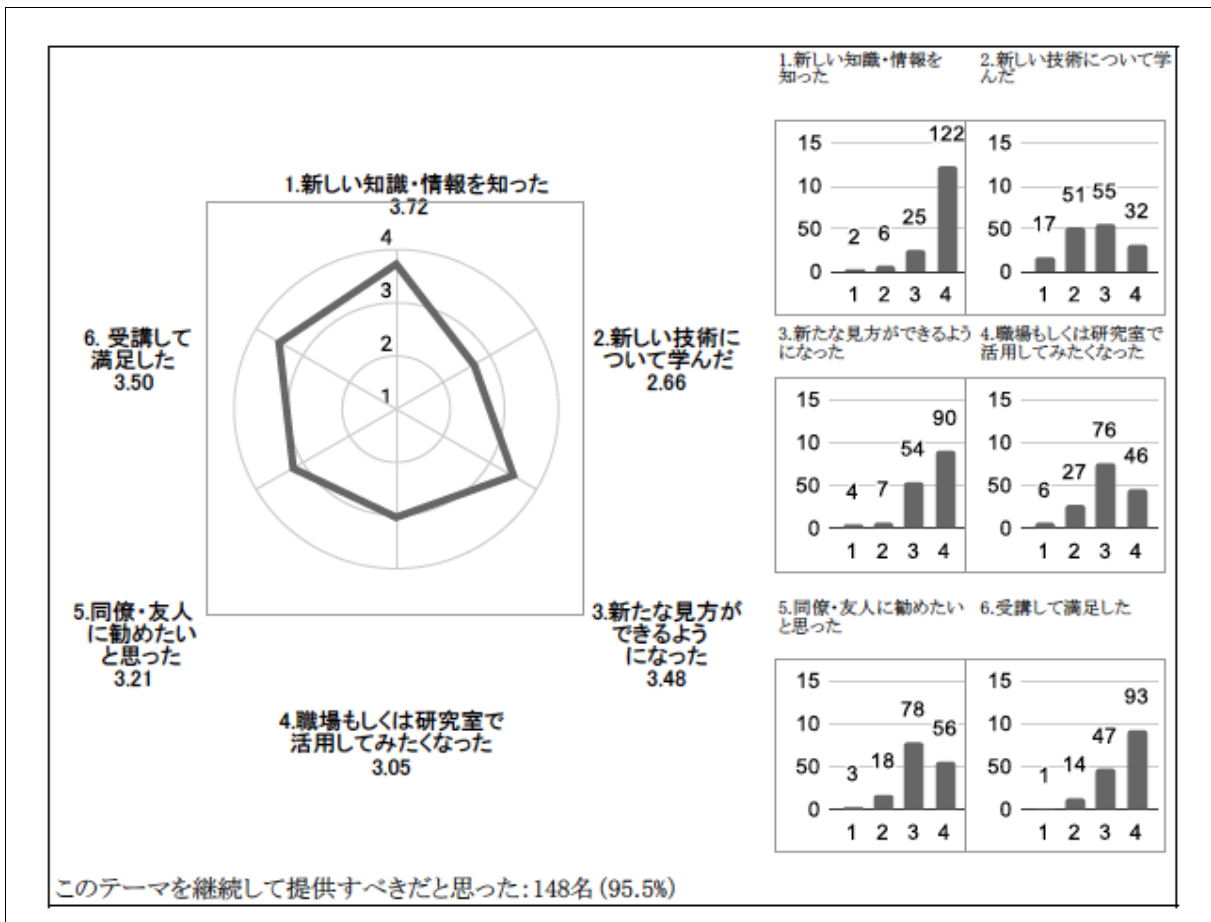
回収率 = 84.2% (155/184)

回答者属性(N=155)

【職階】教授(24)／准教授(16)／講師(4)／助教・助手(7)／管理職教員<学長～学部長>(2)／博士課程(10)／職員<部長・課長以上>(18)／職員<係長・主任・一般職員等>(51)／その他(23)／無回答(0)

【性別】女性(53)／男性(94)／無回答(8) 【学内外】東北大学(13)／他大学等(142)／無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない～4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・質疑応答で、常識だと言われている話しは素人には初めての話しで参考になった。文科省はこのような理解で政策を進めているのか、講演者や質問者の先生方に検証してほしいと思った。
- ・教育投資収益率 がグローバルな新概念との知見とのことで、この視点も今後大切にしていきたいと思いました。
- ・国際政治の動向と高等教育政策の関係性について学ぶことができ、興味深かったです。
- ・世界的な潮流やトレンドをより俯瞰してみることの必要性
- ・政治、経済などいろんな社会システムと関連しながら教育政策を見なければいけないことを改めて感じました。
- ・高等教育の世界的な動向についてマクロな視点でとらえることができた。
- ・アジアの情勢は有用なものでした
- ・国際高等教育戦略について自身の知らないことが多くあったので大変勉強になりました。
- ・高等教育の世界的メガトレンドについて、俯瞰的なお話をいただき、今後のさらなる理論的な探求の可能性を感じました。
- ・レベルの高い質疑応答は貴重です。
- ・自らの研究テーマとしては役に立ちました。
- ・高等教育とグローバル化について長期的・俯瞰的に国内外の主な議論や文献をまとめてくださって、とても分かりやすく勉強になりました。ありがとうございました。
- ・国内政策(文部科学省)を学内で説明する際など、世界的なより広い視野から理解して説明できると感じました。
- ・ASEANとヨーロッパの違い、コロナ禍における高等教育の行方、多国籍大学の今
- ・マイクロキャンパス化の可能性
- ・国際的な高等教育の連携は相似形で国内のボーダーレスな地域連携にも適応できると感じた。
- ・これから日本の大学が、次世代の人たちや日本国外の人たちから、選ばれるようにするためには?ということに危機感を覚えました。大学機関や教職員のみならず、入学する学生たち自身にもグローバル化を受容する能力が必要になってくる

のではないかと思います、特に大学入学までに語学力や国際的な理解、グローバルコンピテンシーが涵養されている必要が生じてくるのではないかと思います。

- 高等教育のグローバルガバナンスも見据えた今後の大学ガバナンスのあり方見直しに関して役立つのではないかと思います。
- トランスナショナル高等教育に関するお話：これまでの展開や質保証との関連について、勉強になりました。
- アフターコロナのお話：杉本先生のご見解をお伺いでき、勉強になりました。
- 国際化が必ずしもボーダーレスを意味するのではなく、新しいナショナルの顕在を意味する見方があると知ったこと
- マクロな視点での国際的な高等教育機関の動きについて
- 欧州、アジア、米国の高等教育の国際化、グローバル化、ガバナンスの地域差と、アジアにおける日本の高等教育の政策強化の方向性（留学生の就職強化等）や大学の多国籍化（ミネソタ大、アリゾナ大 etc）についての示唆を得た。
- アジアの教育について興味があるので、ASEAN の取り組みは興味深かった。
- 質問者からの回答で理解が深まった。
- 見識の深い方々のやりとりで、レベルが高く充実していました。
- テーマが壮大で対象が広範囲に及ぶ内容でしたが、歴史的変容も含め丁寧にまとめられていたので非常に分かりやすく、包括的な理解に繋がった。

3. わかりにくいと思ったこと

- 大学院生なのですが、全体的な情報量が多く、また議論の質も非常に高く、内容理解が追い付きませんでした。
- 全体的に専門的内容が多かったため事前に資料を手元に置きながら講義を聞きたくかった。
- 盛り沢山の内容を 2 時間に詰め込んでいて、ついていくのがやっとでした。これだけの内容なら 2 回に分割しても良いのではないのでしょうか。
- 国家資格枠組みの話が出ていたが、実際欧州および東南アジアで実質的に機能しているのか。東アジアや日本での取り組みや展望はどうか。
- 国際化に後れを取った日本の高等教育は、危機感を基に政策を立案しようとしているという荻谷先生のご指摘に対する具体例。教育サービス提供の自由化と with コロナの関係。
- 専門に研究していらっしゃる先生方からの質問しかなかったということは、研究していない人にとっては難しいということではないかと思った。セミナーの目的にもよると思うが、基本的な知識がないと難しいと感じた。
- Multinational University の機関独自の学位というものが、どのようなものなのか疑問を持ちました。
- 内容が多岐に亘っていたので、もう少し焦点を絞った方がわかりやすかったように思った。
- 企画の意図がわからない。
- グローバル化と地域の動向の話は特に議論も含めてとても勉強になり、有意義に思いましたが、もう少し質保証枠組みや学修成果の可視化（測定）に関する国際的動向の内実をうかがえればありがたかったです。今後そのような内容が扱われることを期待しております。

4. セミナーについての意見・感想

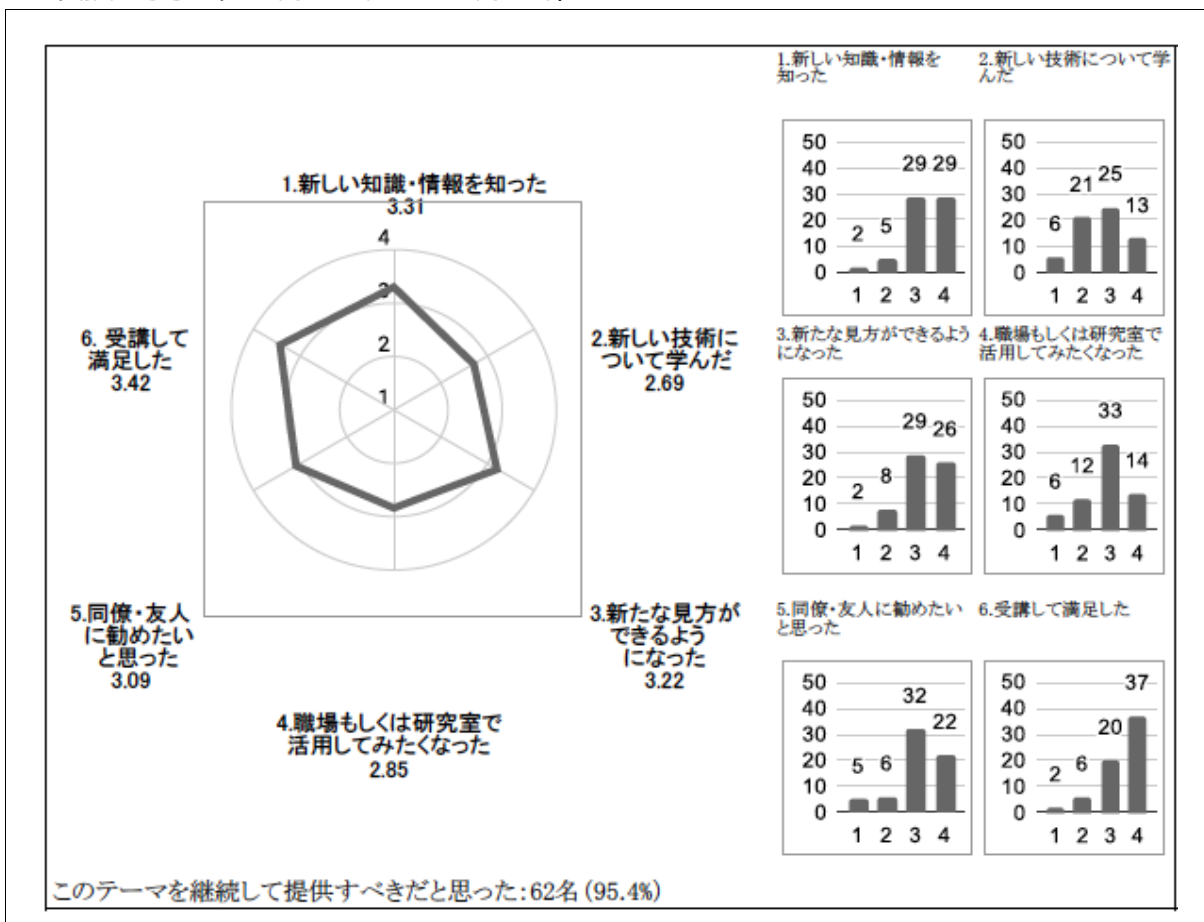
- 先にレジュメを配布していただき良かったです。
- 大枠中心だったので、さらにヨーロッパの各大学が今後をどのように考えて、政策を進めているのかも次回以降深めてほしい。
- 本日の映像を録画していたようですが、後日もう一度拝見できるとうれしいです。
- 情報が多く、範囲が広がったので、もう少し絞った講演もお聞きしたいと思いました。
- 本当に面白かったです。ありがとうございました。
- 杉本先生のご講義もそしてそれぞれのお立場からの質問とディスカッションの時間も大変貴重な学びの場になりました。誠にありがとうございました。
- ポストコロナの世界の高等教育の展望は知りたいね
- 大変勉強になりました。4連休の初日なので受講をためらいましたが、視聴して本当に良かったです。
- 引き続き、高等教育に関して幅広いテーマでのセミナーの継続をお願いいたします。
- 最後の議論の方で出ました職業教育・マイクロクリデンシャルに関するセミナーがあればぜひ聴講させて顶きたいです。
- 同テーマで、近年（コロナ禍を含む最近 5 年程度）に絞ったセミナーを別立てで実施すると面白いのではないかと思います。
- タイトルの内容の大枠を知るには良かったと思います。
- 質疑応答で先生方のフランクな議論を伺えるのがライブの魅力だと思います。講義の中間に Q&A セッションがあり良かったです。
- コロナもあって現状は刻一刻変わるので、継続的に同じテーマで開催されるのもよいと思います。
- 先生方の議論が面白かったです。特に黒田先生の「世界的に統合されている流れへのカウンターとしての分離・分散していく流れがあるのではないか。」といった趣旨のご発言は非常に興味深いものでした。そこで個人的に感じたことといえば、多様化社会の実現のためには多様化である状態を個人個人が受け入れることが必要かと思えます。受け入れるためには、何が違うのかを認識し、そしてなぜ違うのかと理解するという段階があると思えます。そのためには自分との違いを比較しなければなりませんので、より自分という個人の存在をあらためて見つめ直すという考え方になるのではないかと、これが分離分散という思想につながるのではないかと感じました。また、コロナで一層進むオンライン化にも相まって、物理的な問題等で難しかった団体として組織することが容易になり、これは今まで大きな目的が無ければ組織化しなかったものが些細な目的のためであってもいつでも簡単に組織化できるようになったのかなと思えます。当然目的が達成されれば半ば自然消滅的にその組織も解体されるわけですが、組織から解体までの一連の流れが今まで以上に加速していくのではないかと思います。こうして捉えると、統合の流れと分離・分散の流れは一見相反するように見えるが、実はそうではなく、セットで考えるべきものではないかとも感じました。以上、少し長くなりましたが個人的な感想でした。

2020年 10月10日(土) 14:00-16:00	高大接続と大学入試改革	
	講師	宮本 友弘 (東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授)

回収率 = 52.0% (65/125)

回答者属性(N=65)
【職階】教授(14)/准教授(8)/講師(2)/助教・助手(1)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(1)/職員<部長・課長以上>(5)/職員<係長・主任・一般職員等>(19)/その他(15)/無回答(0)
【性別】女性(18)/男性(47)/無回答(0) 【学内外】東北大学(1)/他大学等(64)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・ 大学入試の諸原則は、高大接続において重要だと思った。
- ・ 3つの原則に照らし合わせたこの度の入試改革の評価
- ・ 入試改革の歴史
- ・ 経緯から枠組設定、そして実証に至るまでの論理が明確で理解が深まった。
- ・ 学習方略にそもそもメタ認知的な側面があるという指摘は、あらためてその通りと思いました。
- ・ 大学入試改革の要因分析 (大学入試改革の原則)
- ・ 大学入試における政策・議論の整理をしていただいたこと。なぜ、今回の入試改革が進んでいないのかを考える大きな材料をいただきました。
- ・ 高校調査の実施
- ・ 宮本先生の資料は、これまでの経緯、入試の理念、調査結果等非常にわかりやすく作成されているため、入試関係者にフィードバックしたいと思います。
- ・ 高大接続改革の概要と躰きの解説
- ・ 国公立における入試の記述式の割合
- ・ 大学入試に関して考え方を整理できました。
- ・ 大学入試学がどういうものか関心を持ちました。
- ・ 歴史的な経緯の説明は素晴らしいと感じました。画期についても言及してくださり、ここまでの経緯を理解するうえでは秀逸のご説明だったと思います。
- ・ 主体性の評価に関しては、同意見だったので、個人的見解を伺えてよかった

3. わかりにくいと思ったこと

- ・ 主体性やメタ認知能力を高めるために具体的にどんな手法があるのか知りたい。

- ・東北大学のことについての話になると、よくわからなかった
- ・公平性は難しい問題だと感じました。
- ・総合方選抜の詳細については大学を信頼せざるを得ないところ
- ・入試改革についての情報、もしくは方向性
- ・制度設計の今後の動きと、それに対する東北大学の長期的な入試戦略をもっと知りたかった。
- ・講演内容そのものではありませんが、今後の入試改革の議論の行方

4. セミナーに関する意見・感想

- ・丁寧に説明していただきました。
- ・高大接続と大学入試改革の過去から現在までのあらましを、手際よくまとめていますが、特に something new は見当たりませんでした。ほとんどの内容にデジャブを感じてしまいます。新奇性のある内容だと助かります。
- ・数名のパネラーを配しての意見交換があってもよかったのではないかな。
- ・受け入れる側というよりは、送り出す側の高校の先生の質問が目立った。
- ・質問が顔出しでなければ、もっと突っ込んだ質問がたくさん来たと思います
- ・都合がつかず、参加できませんでした。オンデマンドで配信を希望します。
- ・共通一次試験の記述式や英語の民間機関の利用などが公平性の観点から見送られたが、いつ頃実現するのか興味があります。
- ・質問時間が今回のように長く取っていただけるのはよいが、その際はチャットによる質問も受け付けたほうがよいのではないかな。
- ・分かりやすい説明でよかったです。是非オンデマンドで再度視聴したい。
- ・入試セクション経験者として、「大学入試学」に興味を持った。
- ・本日のセミナー、ありがとうございました。現在も入試のあり方が検討されておりますが、特に主体性評価や英語 4 技能評価は課題が多く、いまだに模索している状況です。
- ・質問に丁寧に答えられていたのが、印象的です。

専門教育での指導力形成関連（各専門分野） コード：S（Speciality）

2020年
7月4日（土）
13:00-15:00

リカレント教育の今、そしてコロナ後に果たすべき大学の役割

講師 乾 喜一郎（白百合女子大学非常勤講師・元社会人学習専門誌編集長）

回収率 = 59.2% (42/71)

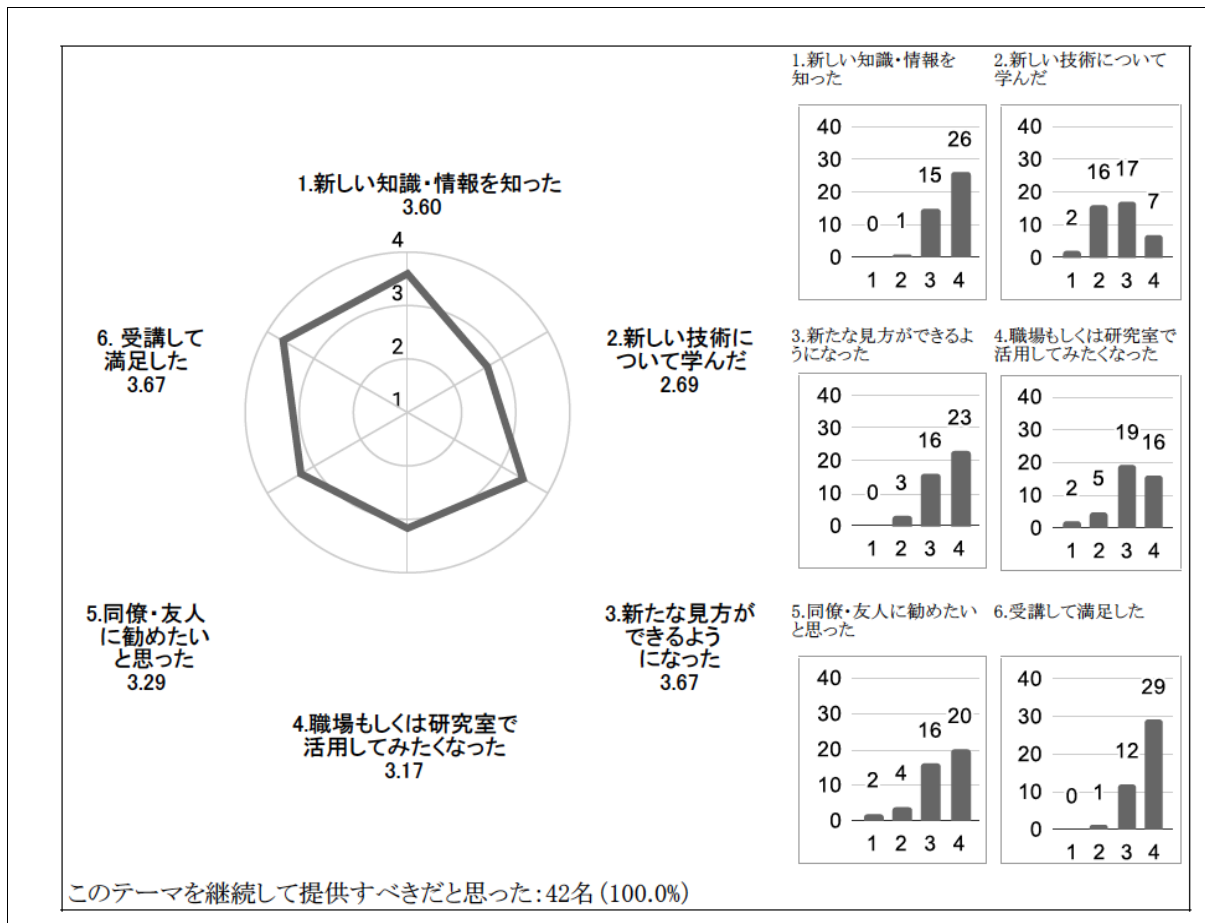
回答者属性(N=42)

【職階】教授(5)／准教授(3)／講師(3)／助教・助手(2)／管理職教員<学長～学部長>(0)／博士課程(3)／職員<部長・課長以上>(4)／職員<係長・主任・一般職員等>(19)／その他(3)／無回答(0)

【性別】女性(16)／男性(26)／無回答(0)

【学内外】東北大学(7)／他大学等(35)／無回答(0)

1. 参加した感想（1. 当てはまらない～4. 当てはまる）



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・学ばない人がなぜ学ばないのか理解すること。
- ・社会人の学びについて大きな視点から、構造的に考えること
- ・大学におけるリカレント教育の在り方をあらためて考えるきっかけになりました。
- ・学習意欲に関する社会人の実態を示すデータ。今後を考えるうえで示唆的でした。
- ・日本において、社会人にとって大学が遠い存在である調査結果
- ・2回目のセッションに関わる議題は、大学がとるべき具体的な対応を考えることができ、役に立ちそうだと思います。
- ・日本と欧米でリカレント教育に期待されることに本質的な差があることを認識できた。
- ・大学が学び続ける人を育成するためには、「学習による成功体験」が重要だということが改めて分かった。教育の最後の砦の大学でこれを提供することの意味を大学教職員が共有すべきだと思う。
- ・リカレント教育の現状が理解でき、今後の対策の検討に役立てることができる
- ・リカレント教育に関する各人の考え方は参考になりました。
- ・社会人が学ばない理由の分析、昭和・平成・令和3つの学びの姿、大学が社会人の学びの場として選ばれるための提案
- ・ロールモデルと出会う仕組みとして、履修証明プログラム生が大学院生と同じ場で学ぶ機会は意味がある。
- ・3つの学習の姿（組織型、資格型、越境型）に整理された説明が役に立った
- ・学ばない方にフォーカスをあて、なぜ学ばないのか構造化しているところが、非常に参考になりました。
- ・立ち位置の違う人とリカレント教育について議論することは新たな気づきがあり、良かったです。
- ・社会人の学習の形における「振り返り」は社会人学習が成功するかどうかの鍵を握っているような気がします。「振り返り」に関して、その経験の創出と実際の場づくりのノウハウについてもっと知りたいと思います。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・学び続ける人と学ばない人との「分断」
- ・家庭環境や学歴等による分断について
- ・リカレント教育の受け手のニーズ、あるいは受講対象者としている範囲。
- ・わかりにくいというより、なかなか困難だと思ったのは、「大学」で学ぶメリットを社会人に、どれだけ伝えられるか。しかも、高校3年生や予備校生とちがって、あまりにもマーケットが広いことの広報コストをどうするか。
- ・キャリア的な見方が大半で、偏っていた
- ・大学・大学院が選ばれないのは、広報力の不足も大きい（情報が必要な人に、必要な情報が提供されていない）のではないかと。大学間で連携した広報も必要ではないか。もう少し情報提供して欲しかった。
- ・リカレント教育を行っている教育機関の横のつながり（協議会等、意見交換ができる場）があるのか、気になりました。
- ・教育機関（期間）後も学び続ける人／学び続けられない人という論点と、大学進学前に学ばなくなった人という論点を分けたほうが分かりやすかったように思います。
- ・人生のステージ（卒後、在職中堅、ベテラン、退職前、リタイア後）に応じた学習プログラムを提供するための具体的なヒントが欲しかった。また、カルチャセンターや民間セミナーと大学の住み分けなどについての説明が欲しかった。

4. セミナーに関する意見・感想

- ・グループディスカッション後の検討にもう少し時間を取ってほしかった。
- ・大学の同僚で研究会をしているので、一緒に考えたいと思います
- ・議論を深めるにはディスカッションの時間が少なかったように思いますので、案分を御検討いただければ幸いです。
- ・普段このようなワークショップで行えるような名刺交換の機会がないのが少し残念だった。同じ問題意識を共有できる方々との名刺交換に代わる何かは、オンラインセミナーのスタンダードとして、検討いただけると嬉しいです。
- ・ブレイクアウトセッションの運営が大変だったと思います。運営の皆様ありがとうございました。
- ・ZOOMでのセッションは、初めてでした。あっという間に終わった感じです。グループワークが1時間程度あれば、共感できて、参加者意識が高まったかもしれませんね。ありがとうございました。
- ・画面共有している資料を、概要や目次でもよいので事前にダウンロードできるようにしてほしい。
- ・何故学ぶのか？このシリーズを続けてください。
- ・新型コロナに関わらず、ZOOMを利用した配信を継続して欲しい。
- ・引き続き、このようなセミナーがあれば参加したい。
- ・議事の進め方、ブレイクアウトセッションの時間配分が分かるとよりスムーズかと思いました。
- ・ディスカッションの議題が複雑だったように思う。また、ディスカッションの時間が短かった。議題を一つに絞り、もう少し時間をとってもらったかなと思う。また、グループディスカッションへのハードルが高いと感じる人が多かったようだ。事前に心構えができるような情報があればよかったのか、今回のように受講者の情報がない方が構えずに参加できてよかったのか、単に慣れなのか、今後見極めていけたらよいと思う。
- ・ブレイクアウトルームをうまく使われており勉強になりました。

マネジメント力形成関連 コード：M (Management)

2020年
7月23日(土)
14:00-16:00

大学におけるリスクマネジメントと広報活動

講師 駒橋 恵子 (東京経済大学 教授)

回収率 = 70.6% (60/85)

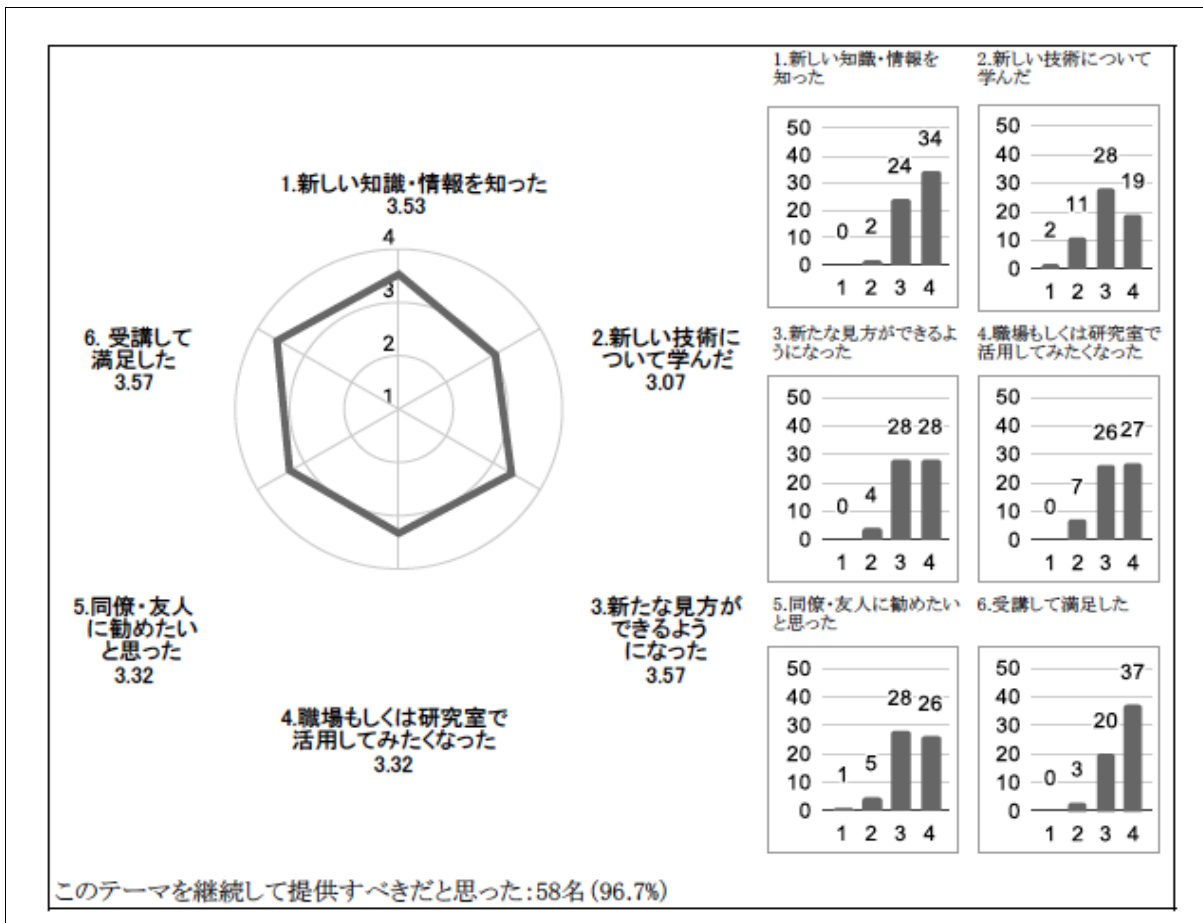
回答者属性(N=60)

【職階】教授(8)/准教授(5)/講師(2)/助教・助手(3)/管理職教員<学長~学部長>(1)/博士課程(1)/職員<部長・課長以上>(18)/職員<係長・主任・一般職員等>(19)/その他(3)/無回答(0)

【性別】女性(20)/男性(40)/無回答(0)

【学内外】東北大学(10)/他大学等(50)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・不祥事における対応の仕方。トップの役割と組織内の共通認識の醸成。
- ・コロナ禍中の下で、危機管理がある日突然やってくるものだと痛感しています。
- ・有事だけでなく、平時から組織内で情報共有を行うことの大切さを改めて認識しました
- ・大学の危機管理に関する広報の事例
- ・他大学の失敗事例からマネジメント手法を学ぶことができました。
- ・大学や企業の事例を多くあげていただきましたので、非常にわかりやすく受講できました。
- ・マスコミの向こうにはステークホルダーとしての市民がいる、ということ。昔から言われていることではありますが、改めて肝に銘じようと思いました
- ・迅速な初期対応が重要だと思いました。
- ・「組織全体が広報マインドを持つ」というのは非常に重要であることがわかりました。
- ・謝罪についての基本的な考え方
- ・大学を考える以前に、自分の研究室のガバナンスを見直そうと気づきました。
- ・二次リスクを抑える重要性を感じました
- ・過去の事例が多く取り上げられたこと
- ・リスク時の対応の全てが参考になりましたが、初期対応を責任を持って行う担当者を決めなければならないと思いました。
- ・全学的な大学ブランドに誇りと自覚を持つシステム作り
- ・最後の心構えとして4項目にまとめて頂いていますとおり、本日の講演内容すべてが役に立つと感じました。
- ・日頃から広報の視点を意識した行動を心がけていきたいと思えます。

- ・大学広報の視点のようなものがわかりました。
- ・クライシスマネジメントとリスクマネジメントをどう考えるかについてあらためて考える機会になりました。
- ・不祥事発生時の事例を参考に学内での研修参加報告をしたいと考えております。
- ・どのように事態が拡大しブランドイメージを落としていくのか、また適切に行動することでどのように収束していくのかを報告に盛り込みたいと思います。
- ・2時間では足りないほど、内容の濃い充実したセミナーでした。昨今の大学を取り巻く状況（とくに SNS など、年配者には馴染みの薄いもの）の影響について、もっとお聞きしたかったです。
- ・出しにくい事例も出していただき、具体的な問題点や対応方法がわかりました。
- ・理論よりも事例が豊富で理解が進みました。
- ・具体事例が多く、大変参考になりました。ここまで詳細な情報が聞けるとは思っていませんでした。
- ・抽象的な理念というより、よく知られている具体例を挙げての解説が多かったため、親しみやすくわかりやすい内容だったと思います。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・手持ちと発表の資料が違ったので、途中からは画面しか見なかった。今日はノート PC のみでの参加でしたので、画面 1 つでメモもしながらは、難しかったです。
- ・配付された資料には事例が一切なかったもので、せっかく得た知識や記憶があいまいになってしまうこと、項目やポイントだけでもあると助かります。
- ・学生、教職員のロイヤリティの高まりと教育研究の質的向上は直接つながらず、間に施策実行のための経済的なリソースが必要で、そこが見えて来ませんでした。
- ・事例紹介が多すぎ、参考になる点が少なかったが、無料セミナーだから致し方ないか
- ・事例研究から広報の在り様をどう昇華するか、よくわかりませんでした。
- ・たくさん事例をご紹介いただき、実際のイメージがつかみやすかったのですが、大学での事例の対応方法について、まとめのスライドがあると、情報の整理がよりしやすかったのではないかと思います。

4. セミナーに関する意見・感想

- ・オンラインセミナーは参加しやすくて良いです。
- ・企業のステークホルダーの従業員との対比で、大学における学生を従業員と同じ利害関係者に位置付けられるかどうかの視点(質問にもありましたが)を深く考察する必要があります。学生は授業料を支払うサービス提供者としての顧客の視点をアフターコロナ後、更に深化すべきでしょう。遠隔授業の例にみられるように学生は学内にいる必要はないし、先生と生徒という教育関係はますます希薄化していくと思います。学生、職員を第1の身内として考えられているような気がして、大学の組織論を改めて研究する必要があると思います。
- ・この時期、対面授業を検討している時期だったため、すべてのニーズを満たす対応がないという駒橋講師からの意見は背中を押してもらえたものだった。何をやっても誰からかクレームがくるためその対応に振り回されていたので大変参考になりました。
- ・分かりやすい事例を示していただき、イメージしやすかったです。
- ・センシティブな内容で難しいかもしれませんが、10 の PD モジュール等で広く公開していただけると、多くの教職員にとって大変参考になるかと思えます。
- ・引き続き、いろいろなテーマで開催いただければと思います。
- ・非常に興味深いセミナーをありがとうございました。大学の教職員全員が視聴すべき内容だと思います。オンデマンド配信で視聴できるなら、同僚にも是非勧めたいと思っています。
- ・もう少し短いバージョンをFD用にして頂けると有り難いと思いました。企業の事例を減らして、大学中心に。
- ・リスクマネジメントに関する研修は今後も継続していただきたいと思います。
- ・非常に貴重なご講演をありがとうございました。大変勉強になりました。講演者の先生、企画をくださった先生方・皆様に改めて感謝申し上げます。コロナによる学年暦の変更で本日は祝日ですが授業があり、途中からの参加となりました。冒頭 30 分を聞くことができず残念でしたので、可能でしたら動画を配信していただければ幸いです。よろしく願いいたします。
- ・具体的にどのように学内内で危機意識の改革をしていくべきか、そういった問題提起や情報共有も出来たらよかったですと思
- ・杉本先生の今回のセミナー開催の主旨、先生自身の問題意識、テーマ選択の理由を聴けたらと思いました。
- ・ご講演だけでなく、それを踏まえた質疑応答でより理解が深まったように思います。ありがとうございました。

2020年 12月5日(土) 14:00-15:30	SDPシリーズ第1回(2020年度) 大学と資産運用	
	講師	川崎 成一(一般社団法人国立大学協会 政策研究所 特別研究員)

回収率 = 46.9% (30/64)

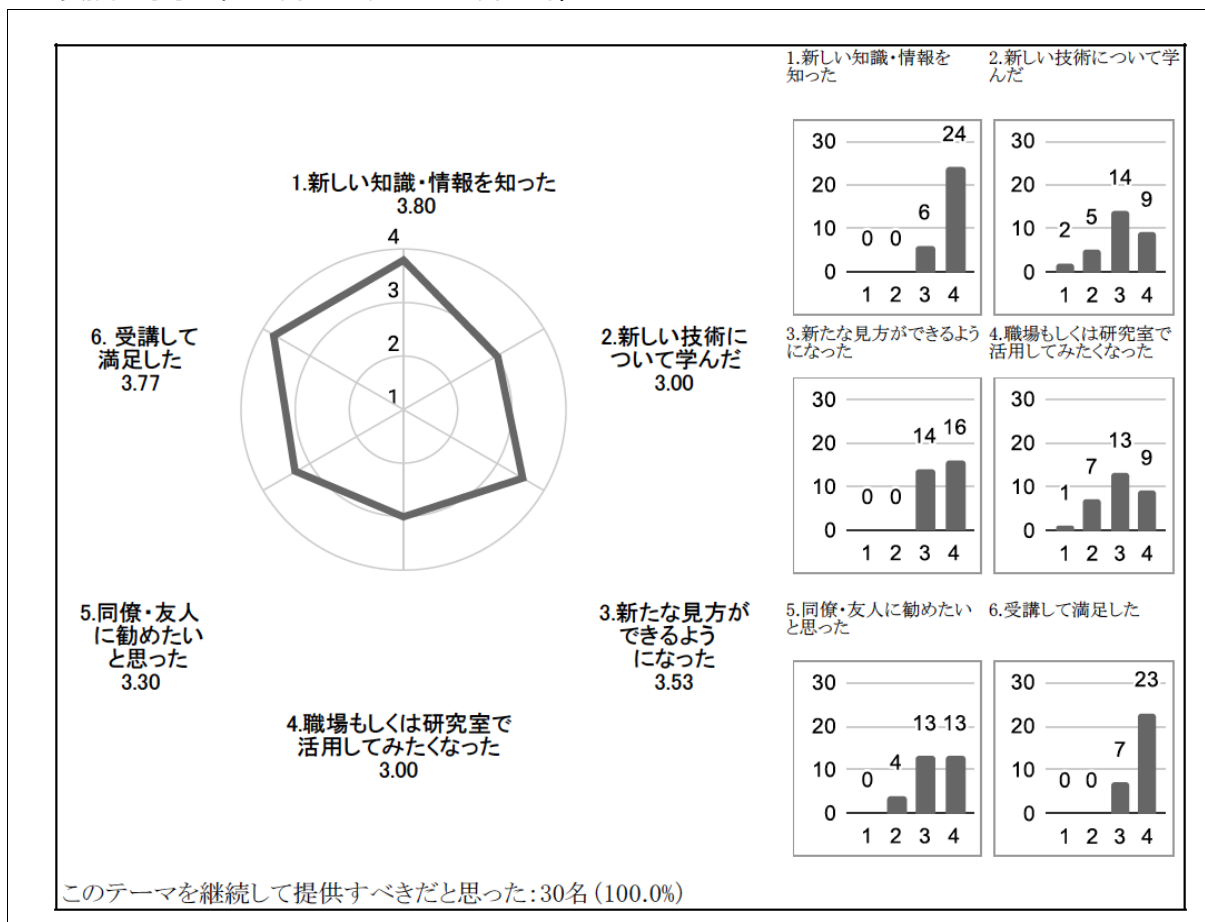
回答者属性(N=30)

【職階】教授(5)/准教授(0)/講師(1)/助教・助手(1)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(2)/職員<部長・課長以上>(7)/職員<係長・主任・一般職員等>(13)/その他(1)/無回答(0)

【性別】女性(6)/男性(24)/無回答(0)

【学内外】東北大学(2)/他大学等(28)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・他大学の実践事例
- ・諸外国での事例は、改めて参考になりました。
- ・歴史的なものは重要かと思いましたがそこは参考になるかと思います。
- ・日本の大学資産運用の現状とアメリカの大学の資産運用の歴史的背景
- ・資産運用ガバナンス確立の重要性
- ・Fiduciary Dutyの視点
- ・運用の今後について役に立ちそう
- ・法人の職員のみならず、現場の職員も財務について理解を深めるべきと感じました。IR活動にも経営の情報を積極的に含めていくべきと改めて業務の方向性を見直すきっかけをいただきました。
- ・資産運用の歴史(アメリカでも今の状況はここ30年の話であること)、ESG投資等に関する状況
- ・資産運用における考え方のベース
- ・米米大学の評価性資産の年代別の推移。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・入門編ではなかったと思いますが、全体的に難しく感じるご説明が多かったです。
- ・小規模校等では、寄附金、基金収益の難しさがあると思うがそのあたりの課題について
- ・フィデューシヤリー・デューティーとスチュワードシップの異同について、言及があるとよかったです。
- ・わかりにくいわけではないが、現状では、担当になるか執行部に入らないと、使う場面がないように感じた。
- ・私学で資産運用に従事しております。歴史的背景からのアプローチは大変明快でわかりやすかったです。ありがとうございます。一点だけ。年金運用はFDの浸透度合いは進んでいますが、大学運用が高度化して将来的に年金運用を目指すかのような印象を受けました。受給者・資金の性格・負債特性等が異なりますし、年金運用と大学運用の特徴も合わせて例示

頂けるとさらに理解は深まると思います。

4. セミナーに関する意見・感想

- ・途中参加のため前半が拝見できませんでした。ぜひオンデマンド配信をご確認ください。
- ・自分の専門外のことが非常にわかりやすく、背景から実践例まで学ぶことができ有益です。無料で、オンラインでこんなに充実した内容を受講できて感謝しております。
- ・資産運用や財務については、継続的に取り上げていただけると助かります。
- ・大学の財務関係のセミナーはほとんど開催されていないので、継続して開催いただきたいです。
- ・基盤となる運用資金の形成に関するお話もお聞きしてみたいと思いました。
- ・担当になるか執行部に入った人向けに、いつでも聞けるオンデマンド型がよいのではないか。また、他の財務系講習会の情報提供があるとよいか、と感じた。
- ・企画頂きありがとうございました。今後の業務等の参考になりました。
- ・カメラ付きではないPCからの参加だったため、質問できず申し訳ございません。国立大学のファンドレイジング業務にかかわっており、ネット検索で米国の例を取り上げているメディアの記事はよく見ますが、その背景及びその延長線上にある今の日本の大学関連の政策動向に結び付けることができ、とても有意義なプログラムでした。次回プログラムも楽しみにしておりますのでどうぞよろしくお願い致します。
- ・本日のテーマを深掘りすると、挙手して質問することを躊躇します。特に、各校資産運用は機密性が高い領域なので所属先を名乗りにくいです。配慮があっても良かったかなと思いました。

2020年 12月19日(土) 13:00-15:00	SDPシリーズ第2回(2020年度) 破壊的イノベーションと大学	
	講師	河南 順一(同志社大学大学院ビジネス研究科 教授)

回収率 = 62.7% (52/83)

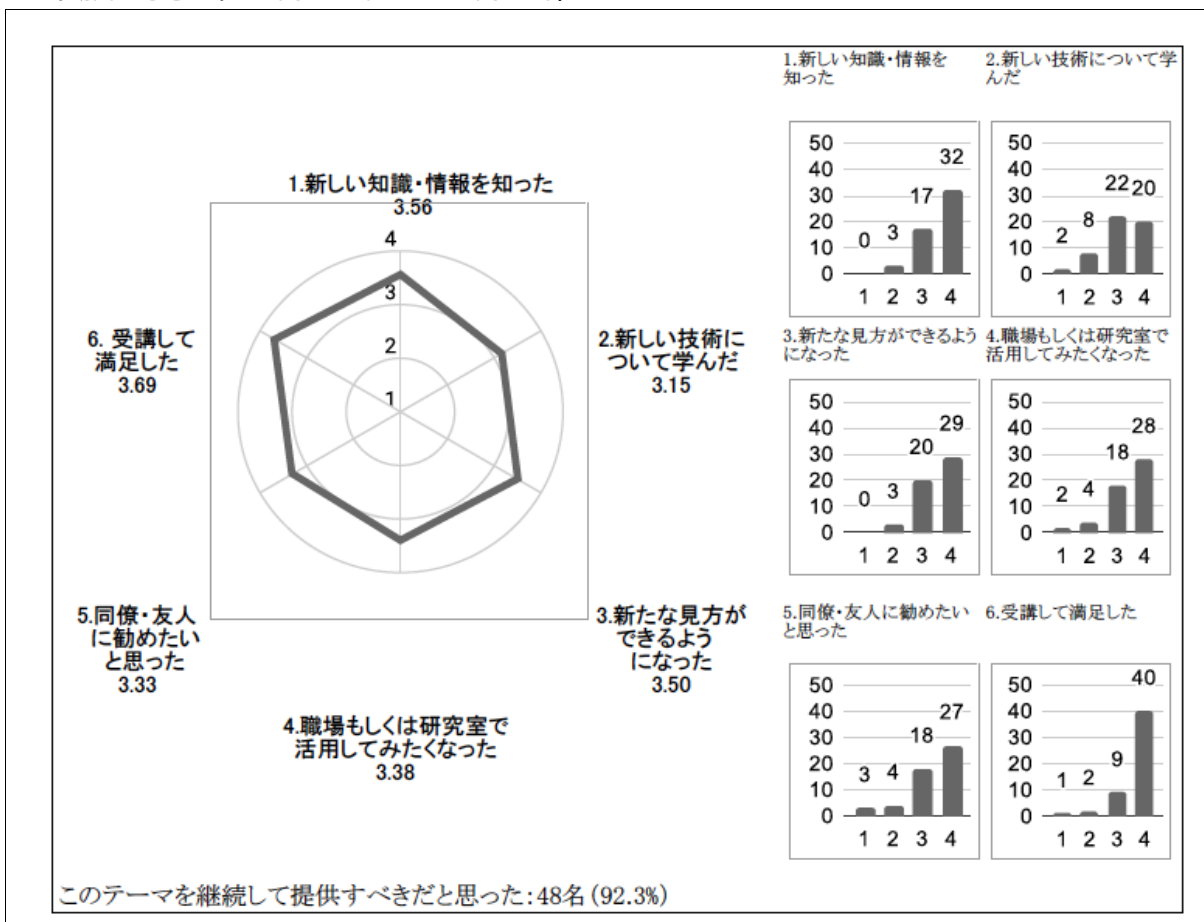
回答者属性(N=52)

【職階】教授(7)/准教授(5)/講師(6)/助教・助手(2)/管理職教員<学長~学部長>(0)/博士課程(1)/職員<部長・課長以上>(10)/職員<係長・主任・一般職員等>(16)/その他(5)/無回答(0)

【性別】女性(10)/男性(40)/無回答(2)

【学内外】東北大学(4)/他大学等(48)/無回答(0)

1. 参加した感想 (1. 当てはまらない~4. 当てはまる)



2. 特に役に立ちそうと思ったこと

- ・ビジョンの重要性
- ・イノベーション理論としては、とても基本的な内容にとどまる説明だったと思う。
- ・既存の大学組織にこだわらないあらたな視点と理解を得ることができました。自身が MBA 取得後大学で働きモヤモヤとしている部分を理解できました。
- ・カモメになったペンギンや、アップルの V 字回復など。
- ・mmhmm のサイト紹介がとてもよかった
- ・新しい Web 講義のアイデアがわいた
- ・変革を起こす覚悟の重要性を感じました。
- ・組織変革のプロセス
- ・あらためて vision をあわせることの重要性と focus & impact
- ・ビジョンを持ち、一人が変わることで世界が変わるということ意識することの重要性を学んだように思います。
- ・変革を起こすのは自分とあって、できることを考えていく気持ちになった。
- ・変革を組織で共有するうえで、企業レベルで考えている戦略論を、大学という特殊な組織(レガシーを好み、変革には抵抗する)にどのように活用するかという視点が学べたと個人的には感じています。
- ・点と点をつなぐというお話。過去を振り返ってつなぐという発想なら受け入れられる人も増えるような気がしました。
- ・自分が所属する組織にビジョンはあるが、それに沿った変革が進まないのは構成員一人ひとりにビジョンが共有されていないからだと思います。まずはビジョンを構成員全員で共有するためにはどうすればいいかを考えていきたいと思いました。
- ・直接的には mmhmm の情報が第一に挙げられますが、think different を本気で実行する意思を持つことが「役立つ」のだと思いました。

- ・人の変わった部分を消すような教育をしないようにしたいと思いました
- ・イノベーションはビジョンをもったキーパーソンがいるところから始まると思いました。この二つがないところで悩んでいてもイノベーションは起こりにくいということなのでしょう。
- ・創設者の思考と感覚を追体験しながら、改めて自大学の顧客と提供サービスを生々しく描いてみたいと思う。

3. わかりにくいと思ったこと

- ・イノベーション理論に対して、ほとんどアップル1社の事例説明だけだったので、学術的に目新しいこと（新しい視座や枠組みなど）は何もなかったのではないかと思います。
- ・大学組織との関係は不明瞭でした。
- ・今回取り上げた例はリーダー（スティーブ・ジョブズ等）が優れていた事例と思うが、そうでない場合はどうすればよいのか。この場合抵抗勢力は重要ではないか。
- ・企業内イノベーションのプロセスでの「抵抗勢力」との対応
- ・概念は理解できましたので、それを具体的な一歩にどう落とし込んでいくかという事例を示して頂ければ、さらに理解が深まったのではないかと感じました。
- ・講師が各企業でどのような仕事をしていた少し聞きたかった
- ・ケーススタディーから学ぶという方法ですので、一定の理解はできましたが、現実には、個別の組織で答えを探し出せるかどうかではないかと思えます。わかりにくいというより、自分自身で実感できないもどかしさは残りました。

4. セミナーについての意見・感想

- ・内容が「破壊的イノベーションと大学」にまったくなっていない。「アップルの事例研究」といったように内容に沿ったタイトルをつけてほしい。経営学のイノベーション理論としても、教育学としても、どちらも物足りなさが残った印象を受ける。
- ・もう一度ゆっくり視聴したいです。
- ・継続してほしい。リアルタイム以外にも ISTU などでも出してもらえると嬉しい
- ・所属する大学の現状に当てはまる内容だったため、大変興味深く拝聴しました。
- ・現在の職場の状況を振り返る大切な観点をいただきました。
- ・同じようなセミナーを開催してほしい。
- ・今回は企業でのイノベーションという教育機関以外のお話はとても新鮮でした。
- ・このような最前線のビジネスに関するとても興味があるので楽しかったです。大学組織の中で生かしていきたい。
- ・非常に勉強になりました。答えを学ぶセミナーというより、考えさせられる2時間になりました。大学を偏差値で並べてヒエラルキーを作ってきた感がこれまでありましたが、大学が何も変わらなければどんどん下位の大学から淘汰されていくことは避けられないと思います。同時に、今日の話聞いて、disruptionをチャンスととらえ、危機感を持って組織で共有すれば、倒産目前でもブレイクスルーは可能であるという前向きな気持ちにもなりました。貴重な機会をありがとうございました。
- ・とても面白く、よくデザインされ、説得力も抜群でした。
- ・河南さんが今悩んでいると、正直にお話されている姿にも、大いなる共感を覚えます。是非、このイベントは継続して頂ければ幸いです。ありがとうございました。
- ・大変素晴らしいセミナーでした。どうも有難うございました。
- ・非常に有意義で刺激的なお話でした。ソフトも使ってみます。
- ・テーマに新鮮味があってよかったです
- ・大変、良いお話でした。過去に企業研修で話題にした内容もあり、思い出しながら聞いていました。良かったです。ぜひ続けてください。
- ・大学内部から変わろうとする試みが、嬉しかったです。コロナ禍で、旧態依然の態勢は、一変するとかんがえます。これからも、大学の有志のカナリアとして、旧態を批判するのではなく、10年・20年後の大学を創造する礎となる講演を切に希望します。貴重な講演会をありがとうございました。
- ・今回のセミナーのように、理論ではなく、実体験を披露いただきたいと思います。リアリティがあるので、感動的で面白いです。

4.4 PDOnline (専門性開発プログラム動画配信サイト) 一覧

(2020年3月末時点)

	セミナー名	講師 (所属は講演当時, 敬称略)
1	Managing internationalisation: The priorities of the University of Melbourne	Richard James (メルボルン大学)
2	Finding Common Ground: enhancing interaction between domestic and international students	Sophie Arkoudis(メルボルン大学)
3	研究と実践のインタラクション: 大規模学生調査研究と大学IRコンソーシアム	山田礼子 (同志社大学)
4	学術分野の男女共同参画とポジティブ・アクションの課題—憲法学研究者としての歩みにふれて	辻村みよ子 (東北大学)
5	Designing Your Courses for More Significant Learning	Dee Fink (高等教育コンサルタント)
6	大学教育論: 教養と専門の二項対立を越えて	小笠原正明 (北海道大学)
7	リーダーシップと意思決定	吉武博通 (筑波大学)
8	歴史から見た大学: 中世から現代まで	寺崎昌男 (立教大学)
9	認知科学と学習の原理・応用	佐伯胖 (信濃教育会教育研究所長, 東京大学名誉教授)
10	Ensuring Research Integrity in the Australian Context: Future Directions	Marc Fellman(豪ノートルダム大学)
11	データに基づく教学改革をどのように進めるか ～アセスメントの5ステップ～	山田剛史 (愛媛大学)
12	大学教育と青年期発達	鈴木敏明 (東北大学)
13	授業づくり: 準備と運営	邑本俊亮 (東北大学)
14	アカデミック・ライティングを指導する—現状の分析と指導法の提案—	井下千以子 (桜美林大学)
15	東北大学生の履修行動と学修成果	串本剛 (東北大学)
16	学修成果測定をめぐる国際動向	杉本和弘 (東北大学)
17	人文・社会科学における研究キャリア形成—現状と若干の提言	佐藤裕 (国際教養大学)
18	学習と教育の科学—認知理論から大学の授業改革を考える—	市川伸一 (東京大学)
19	Ethical Conduct in Research Supervision —Principles, Policies, and Procedures	Gabriele Lakomski (メルボルン大学)
20	学習効果を高めるICTの活用法 ~反転授業も含めた授業設計~	向後千春 (早稲田大学)
21	デジタル知識革命と大学の未来 ～ポスト・グーテンベルク時代の教育に向けて～	吉見俊哉 (東京大学)
22	発達障害学生支援の現状と法が求める合理的配慮	青野透 (金沢大学)
23	Transforming Classrooms for Active and Collaborative Learning	Andy Leger (クィーンズ大学)
24	学生が成長する環境とは何か —ボーダーフリー大学の現実をふまえて—	葛城浩一 (香川大学)
25	学力形成と教育マネジメントの役割—金沢工業大学の実践—	西村秀雄 (金沢工業大学)
26	大学教育改革のトレンドと日本が目指すべき21世紀の学士課程教育像	小笠原正明 (北海道大学名誉教授)
27	体育を通して見る人間教育	木原成一郎 (広島大学), 小林勝法 (文教大学), 大築立志 (東京大学), 浅井英典 (愛媛大学)
28	大学教員の役割とキャリアステージ	羽田貴史 (東北大学)
29	社会学における数理科学教育の現状と課題	盛山和夫 (関西学院大学)
30	大学における統計科学・データサイエンス教育の課題と展望	渡辺美智子 (慶應義塾大学)
31	外国人留学生の日本における就職支援の課題と企業の取り組み事例	田籠喜三 (株式会社TAGS)

32	Academic Leadership and Current Challenges in Higher Education: an Australian Perspective	Peter McPhee (メルボルン大学)
33	Leadership Foundation for Higher Education (UK)	Doug Parkin (Leadership Foundation for Higher Education)
34	Curriculum Reform in Australian Universities: Management for Internationalization	Peter McPhee (メルボルン大学)
35	Classroom English: Pronunciation	Vincent Scura (東北大学)
36	データを活用した教育改善へのステップ	鳥居朋子, 川那部隆司 (立命館大学)
37	私立大学のガバナンスの課題と展望 一地方中・小私学の可能性を考える	合田隆史 (尚絅学院大学)
38	国立大学のガバナンスとリーダーシップ	吉武博通 (筑波大学)
39	世界の高等教育政策	杉本和弘 (東北大学)
40	大学職員の専門性開発 一その現状と課題一	大場淳 (広島大学)
41	大学カリキュラムの構造と編成原理	吉田文 (早稲田大学)
42	発表倫理を考える	山崎茂明 (愛知承徳大学)
43	研究評価の手法とマネジメント	林隆之 (大学改革支援・学位授与機構)
44	インストラクショナルデザインへの誘い	鈴木克明 (熊本大学)
45	コーチング技能を活用した院生指導	出江紳一 (東北大学)
46	グローバル化する高等教育における国際化戦略・政策・実践	太田浩 (一橋大学)
47	国民の量的リテラシーに求められるもの 一科学技術立国を支える基盤	桑原輝隆 (政策研究大学院大学)
48	イノベーション人材育成に資する数学教員養成の在り方	根上生也 (横浜国立大学)
49	聴覚・視覚障害学生の体育授業における配慮と工夫	栗原浩一 (筑波技術大学)
50	障害学生の発達の課題と支援のあり方	石原保志 (筑波技術大学)
51	発達障害を含む精神障害のある学生への合理的配慮と相談支援のあり方について	長友周悟 (東北大学)
52	聴覚障害学生の語学授業の配慮と課題	須藤正彦 (筑波技術大学)
53	聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスの理念に基づく授業環境の整備	石原保志, 宮城愛美, 宇都野康子 (筑波技術大学)
54	授業デザインとシラバス作成	串本剛 (東北大学)
55	[HEIJ フォーラム・基調講演]大学教職員の力量向上と役割の高度化	篠田道夫 (桜美林大学)
56	[HEIJ フォーラム・専門家会議]各国の高等教育における教職員の能力開発と組織開発	高野篤子 (大正大学), 大森不二雄 (東北大学), 杉本和弘 (東北大学), 大場淳 (広島大学)
57	[HEIJ キックオフシンポ・報告集]大学教育イノベーションに向けた3つの取組	日向野幹也 (早稲田大学), 竹内比呂也 (千葉大学), 佛淵孝夫 (佐賀大学)
58	[HEIJ キックオフシンポ・基調講演]これからの働き方と今後の教育のあり方	柳川範之 (東京大学)
59	「しまった !!」とならないために 一ICT時代の教育で押さえておきたい法一	三石大, 金谷吉成 (東北大学)
60	Engaging Students in Learning in English-medium Classes	Todd Enslin (東北大学)
61	Leadership to Internationalize Higher Education and its Institutions	John K. Hudzik (Michigan State University)
62	大学生のクリティカルシンキングの育成	楠見孝 (京都大学)
63	学生理解と学生発達	岡田有司 (東北大学)
64	課題を考える 一大学教育の課題とデータサイエンス学部の挑戦	竹村彰通 (滋賀大学)

65	[SDP シリーズ第 1 回]経営支援に向けた IR 情報のマネジメント	森雅生 (東京工業大学)
66	[SDP シリーズ第 1 回]内部質保証を学習成果につなげる道標	大森不二雄 (東北大学)
67	[SDP シリーズ第 1 回]教学ガバナンスのあり方とそれを支えるアカデミック・リーダーの育成	杉本和弘 (東北大学)
68	私立大学のガバナンス ～事例にみるその多様性と可能性～	大森昭生 (共愛学園前橋国際大学)
69	[HEIJ・第 2 回フォーラム]これからの大学に求められるマネジメント・組織開発	吉武博通 (首都大学東京)
70	[HEIJ・第 2 回フォーラム]ファカルティディベロッパー (FDer) に求められる専門性	佐藤浩章 (大阪大学)
71	科学教育を科学的に変革する：学生が学習する授業は人気教授の名講義に勝る	Steven Pollock (University of Colorado Boulder)
72	実践から語る－大学数学教育の現状と未来へのデザイン	水町龍一 (湘南工科大学)
73	[SDP シリーズ第 2 回]リスクマネジメントとしての研究倫理の取り組み	羽田貴史 (東北大学)
74	[SDP シリーズ第 2 回]現代社会における科学技術イノベーション政策の動向と課題	小林信一 (放送大学)
75	組織のパフォーマンスを向上させるマネジメント	藤本雅彦 (東北大学)
76	研究政策と知的財産戦略－大学における研究成果の取扱い－	玉井克哉 (東京大学)
77	IR による教学データの活用手法	浅野茂 (山形大学)
78	ラーニング・アナリティクスの可能性	緒方広明 (京都大学)
79	大学における教育と学習の評価	木村拓也 (九州大学)
80	発達障害学生の学びとキャリア：「入口」「真ん中」「出口」の支援	田澤実 (法政大学)
81	世界における高等教育の質保証の到達点と課題	深堀聡子 (国立教育政策研究所)
82	[SDP シリーズ③2018]第 3 期認証評価にどう対応するか－内部質保証の重点項目化の意味－	土屋俊 (大学改革支援・学位授与機構), 工藤潤 (大学基準協会), 伊藤敏弘 (日本高等教育評価機構)
83	国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革－カール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組－」	Carl Wieman (Stanford University)
84	国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者が主導した科学・技術教育の科学的変革－カール・ワイマン博士とインペリアル・カレッジ・ロンドンの取組－」	Martyn Kingsbury (Imperial College London)
85	学びのユニバーサルデザイン (UDL) で幅広い教育ニーズに対応できる講義を	川俣智路 (北海道教育大学教職大学院)
86	エンrollment・マネジメントをどのように捉え、どのように進めるか	髙田敏行 (茨城大学)
87	国立大学における経営者層形成の諸問題	山本健慈 (国立大学協会 専務理事, 和歌山大学 前学長・名誉教授)
88	[HEIJ・第 3 回フォーラム] AI 時代の大学教育はどうあるべきか	中島秀之 (札幌市立大学)
89	[HEIJ・第 3 回フォーラム] 人間の知性は、AI とどう異なり、どう育てるべきか	鈴木宏昭 (青山学院大学)
90	大学の使命と社会～私のビジョン～	宮内孝久 (神田外語大学)
91	大学の使命と社会～私のビジョン～政策の視点、地方私学の視点から	合田隆史 (尚絅学院大学)
92	世界の高等教育政策	杉本 和弘 (東北大学)
93	高大接続と大学入試改革	宮本 友弘 (東北大学)
94	大学は誰に何を説明するのか－共通性と多様性の両立	深堀 聡子 (九州大学)
95	学修時間と単位制度を再検討する：日米の議論から	森 利枝 (大学改革支援・学位授与機構)

4.5 プログラム修了者数（2010～2020年度）

年度	PFFP ¹⁾		NFP ²⁾		TLP ³⁾ ※	
	フルコース	ショートコース	フルコース	ショートコース	教員	職員
2010	13	-	-	-	-	-
2011	15	-	3	-	11	0
2012	6	-	6	-	4	3
2013	9	-	2	-	4	4
2014	5	-	3	-		
2015	4	4	6	6	7	2
2016	3	4	3	18		
2017	7	-	14	-	3	4
2018	3	-	18	-		
2019	3	-	14	-		
2020	未実施		未実施		(新型コロナウイルス感染症に伴い2019-2021と長期履修化)	
合計	68	8	69	24		
総計	76		93		42	

1) 大学教員準備プログラム (Preparing Future Faculty Program: PFFP)

2) 新任教員プログラム (New Faculty Program: NFP)

3) 大学変革リーダー育成プログラム (Transformational Leadership Program in Higher Education: TLP)

※2011・2012年度は、各1年間のパイロット版プログラム（大学教育マネジメント人材育成プログラム (Educational Management Leadership Program: EMLP)）。2013年度より2か年の履修証明プログラム化。2013～2015年度はEMLP、2016～2018年度より「アカデミック・リーダー育成プログラム (LAD)」に改編、2019～2020年度はTLPとして提供。

※TLP2019-2020年度受講生は、新型コロナウイルス感染症に伴う長期履修により、2021年9月に修了予定。

